

NHKは14日、東京・渋谷のNHKホールで、第100回放送記念日記念式典を開き、第76回（2024年度）日本放送協会放送文化賞の受賞式を実施した。NHKの稲葉雄雄会長、NHK経営委員会の古賀信行委員長、竹内芳明・総務事務次官、日本民間放送連盟（民放連）の堀木卓也専務理事が登壇し、祝辞を述べた。

第100回 放送記念日 記念式典



竹内総務事務次官

NHK ネット必須業務化は歴史的転換点

稲葉会長
NHKネット必須業務化は歴史的転換点

稲葉会長は、まず大正14年（1925年）3月22日、NHKの前身の1つである東京放送局が現在の東京港区芝浦にあった仮放送所から日本初のラジオ放送を開始したことに触れた。

「インターネット活用業務必須業務化の議論の中でNHKは、メディアの多元性確保を重視すると繰り返していた」とし、堀木氏はこの言葉を、公共的な役割を果たすメディアとの共存、時には協調し、存在感を維持するというNHKの意思表明と受け止めているとの認識を示す。



稲葉会長

稲葉会長は、まず大正14年（1925年）3月22日、NHKの前身の1つである東京放送局が現在の東京港区芝浦にあった仮放送所から日本初のラジオ放送を開始したことに触れた。

稲葉会長は、まず大正14年（1925年）3月22日、NHKの前身の1つである東京放送局が現在の東京港区芝浦にあった仮放送所から日本初のラジオ放送を開始したことに触れた。

稲葉会長は、まず大正14年（1925年）3月22日、NHKの前身の1つである東京放送局が現在の東京港区芝浦にあった仮放送所から日本初のラジオ放送を開始したことに触れた。

稲葉会長は、まず大正14年（1925年）3月22日、NHKの前身の1つである東京放送局が現在の東京港区芝浦にあった仮放送所から日本初のラジオ放送を開始したことに触れた。

稲葉会長は、まず大正14年（1925年）3月22日、NHKの前身の1つである東京放送局が現在の東京港区芝浦にあった仮放送所から日本初のラジオ放送を開始したことに触れた。



堀木専務理事

堀木専務理事は、NHKの歴史を振り返り、インターネットの普及による視聴者の多様化と、放送のデジタル化が進む中で、NHKが果たすべき役割を改めて考え、インターネットを活用した放送のあり方を模索しているとの認識を示す。

堀木専務理事は、NHKの歴史を振り返り、インターネットの普及による視聴者の多様化と、放送のデジタル化が進む中で、NHKが果たすべき役割を改めて考え、インターネットを活用した放送のあり方を模索しているとの認識を示す。

民放連「多元性確保」はNHKの意思表明

民放連専務理事
「多元性確保」はNHKの意思表明

民放連専務理事は、NHKの意思表明について、民放連としても、インターネットを活用した放送のあり方を模索しているとの認識を示す。

民放連専務理事は、NHKの意思表明について、民放連としても、インターネットを活用した放送のあり方を模索しているとの認識を示す。

民放連専務理事は、NHKの意思表明について、民放連としても、インターネットを活用した放送のあり方を模索しているとの認識を示す。

民放連専務理事は、NHKの意思表明について、民放連としても、インターネットを活用した放送のあり方を模索しているとの認識を示す。



古賀委員長

古賀委員長は、NHKの意思表明について、民放連としても、インターネットを活用した放送のあり方を模索しているとの認識を示す。

古賀委員長は、NHKの意思表明について、民放連としても、インターネットを活用した放送のあり方を模索しているとの認識を示す。

古賀委員長は、NHKの意思表明について、民放連としても、インターネットを活用した放送のあり方を模索しているとの認識を示す。

古賀委員長は、NHKの意思表明について、民放連としても、インターネットを活用した放送のあり方を模索しているとの認識を示す。

古賀委員長は、NHKの意思表明について、民放連としても、インターネットを活用した放送のあり方を模索しているとの認識を示す。

古賀委員長は、NHKの意思表明について、民放連としても、インターネットを活用した放送のあり方を模索しているとの認識を示す。

古賀委員長は、NHKの意思表明について、民放連としても、インターネットを活用した放送のあり方を模索しているとの認識を示す。

古賀委員長は、NHKの意思表明について、民放連としても、インターネットを活用した放送のあり方を模索しているとの認識を示す。

2025年3月22日 祝 放送100年

ATP
一般社団法人 全日本テレビ番組製作社連盟
理事長
福浦 与一
CREATORS CATALOGUE
(English) (Japanese)
〒105-0014
東京都港区芝 2丁目5番7号
ハセガワビル 6F
TEL 03-6205-7858
FAX 03-6205-7859
https://www.atp.or.jp/

ZIPPY PRODUCTION
代表取締役・チーフプロデューサー
渡邊 宏
株式会社 ジッピープロダクション
〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿 1-19-15
ウノサワ東急ビル 3F
Phone:03-6821-7773
Fax: 03-5792-7700
http://www.zippy-pro.co.jp/

最新の機材を
プロの現場へ
株式会社 銀座サクラヤ
代表取締役社長
浅沼 健司
本社
〒104-0061 東京都中央区銀座 2-8-5
Tel.03-3561-6151 Fax.03-3561-6152
セールス & レンタル Div.
〒111-0051 東京都台東区蔵前 3-12-2
Tel.03-3863-5171 Fax.03-3863-5177
SINCE 1949
Ginza Sakuraya
TOTAL AV SOLUTION

ITOCHU
伊藤忠ケーブルシステム株式会社
代表取締役社長
中谷 晃治
〒141-0022
東京都品川区東五反田 3-20-14
高輪パークタワー
TEL : 03-6277-1821 (代表)
FAX : 03-6277-1850
https://www.itochu-cable.co.jp

NHK ART
代表取締役社長
平田 恭佐
株式会社 **NHKアート**
〒151-0063
東京都渋谷区富ヶ谷 1-14-7
アートビル
TEL (03)3481-2881
FAX (03)3481-2905
www.nhk-art.co.jp

TOTSU
株式会社 東通インターナショナル
代表取締役社長
伊藤 章
〒102-0073
東京都千代田区九段北 2丁目3番6号
電話 03-5860-1911
https://totsu-inc.co.jp/

一般社団法人
全国地域映像団体協議会
名誉会長 **信井 文夫**
理事長 **遠藤 誠**
副理事長 **岩月 雅章**
事務局長 **姫野 敬幸**
＜本部事務局＞
〒460-0006
愛知県名古屋市中区葵1-27-29-402 (株) テレビシティ内
TEL 052-933-5131
FAX 052-933-5132
URL http://www.zeneikyo.jp
＜東京連絡事務所＞
〒112-0006
東京都文京区小日向1-24-8エイソールビル
TEL 03-3942-2161
FAX 03-3942-2581

代表取締役社長
星野 智彦
国際放映株式会社
〒155-7100
東京都世田谷区砧 3-17-1
TEL 03-3474-9172
FAX 03-3474-9173

NABSHOW
Where Content Comes to Life
Las Vegas
April 5-9, 2025
https://www.nabshow.com/

株式会社 **NHKテクノロジー**
代表取締役社長
山口 太一
〒150-0047
東京都渋谷区神山町 4-14
（第三共同ビル）
TEL 03-3481-7823
FAX 03-3481-7820

放送は今年で100年を迎えた。ラジオが始まった際、放送には文化・生活・教育・経済の各側面で大きな期待が寄せられた。そして戦後はテレビがメディアの王様になり栄光の時代を迎える。しかし20世紀末に登場したインターネットで雲行きが変わり、今やマスメディアは大ピンチに立たされている。それでも筆者は、IT技術を正しく活用すれば、放送で培ってきた力でピンチを絶好のチャンスに変えられると考える。問題は経営や現場がどれだけ正しく認識し実行に移せるかだ。次の100年に向けた可能性について考える。

(次世代メディア研究所 鈴木祐司)

放送100年 大ピンチの裏側に絶好の勝機

★社会の各諸相変える
1925年3月22日、「JOKA」の第一声で日本の放送は幕を明けた。直後に社団法人東京放送局の後藤新平総裁は、「文化の機会均等」「家庭生活の革新」「教育の社会化」「経済機能の敏活」という放送の4機能を挙げた。大勢に瞬時に情報を届けるシステムは大きな影響力を持ち、確実に社会の各諸相を変えていった。

戦後、1953年にテレビが登場すると、放送はさらなる進化を遂げる。テキスト・音声・映像で誰にでもリアルタイムに届けられたテレビ放送は、短期間に全国津々浦々に届くようになり、75年には広告収入で新聞を抜く。テレビはメディアの王様となった。20世紀は「映像の世紀」と言われたのである。

中でも経済に与えた影響は特筆に値する。受信機や放送システム自体も消費や設備投資で大きなインパクトを持ったが、併せて電波に乗って大勢に届けられたCMは、大量生産大量消費の高度経済成長を支えた最大の要因だったと言えよう。か

た混信混乱を避け、情報目的だった。しかし放送を確実に届ける目的だった。側は「融合」という言葉を使うことすら嫌悪し、放送法に定められた「放送」は公衆による直接受信されることを目的とする無線通信の送信とある。つまり放送は通信の一部で、技術的には同一のもの。社会的な必要性から、制度として区別されたのである。

その後インターネットの登場で、今世紀初頭と通信と放送の融合論が持ち上がった。両者の機能を最大限生かすことが、た混信混乱を避け、情報目的だった。しかし放送を確実に届ける目的だった。側は「融合」という言葉を使うことすら嫌悪し、放送法に定められた「放送」は公衆による直接受信されることを目的とする無線通信の送信とある。つまり放送は通信の一部で、技術的には同一のもの。社会的な必要性から、制度として区別されたのである。

その後インターネットの登場で、今世紀初頭と通信と放送の融合論が持ち上がった。両者の機能を最大限生かすことが、

「JapanasN」これに合わせてメディアの勢力図も塗り替えられた。この四半世紀の経済の繁栄に酔いしれ、インターネット広告費が急伸する。今世紀初頭、ラジオ・雑誌・新聞の順に抜かれていき、テレビも19年に逆転された。

★インターネット登場
しかし、バブルが崩壊すると、放送にも陰りが忍び寄り始める。インターネットの登場で、放送はさらなる進化を遂げる。テキスト・音声・映像で誰にでもリアルタイムに届けられたテレビ放送は、短期間に全国津々浦々に届くようになり、75年には広告収入で新聞を抜く。テレビはメディアの王様となった。20世紀は「映像の世紀」と言われたのである。

中でも経済に与えた影響は特筆に値する。受信機や放送システム自体も消費や設備投資で大きなインパクトを持ったが、併せて電波に乗って大勢に届けられたCMは、大量生産大量消費の高度経済成長を支えた最大の要因だったと言えよう。か

IP網前提に合理的メディアへ

インターネットの登場で、放送の優位が次第に崩れ始めた。今世紀に入ると、ドコモが進み、2010年代にはスマホとSNSが使われるようになり、雑誌・新聞・ラジオ・テレビの4大マスメディアは次第にネットに市場を奪われていく。

一握りのプロが制作した良くてきた情報を、大勢が編成に従って同時に享受する放送の利点も崩れ始めた。代わりに多くの人が発する多様な情報が、ネット上に溢れ始める。利用者は自分の都合にあわせて、興味のある情報を好きなだけ消費できるようになった。「オンデマンド」「ピンポイント」「自分事」が、情報流通のキーワードになった。

今ではダブルスコアまで引き離されている。問題は単に広告費にとどまらない。メディアとしての利用機会も、ネットに押されてテレビは急速に減っている。コロナ前までは、49歳以下の若年層に一定程度見られていたテレビだが、今やどの局もYouTubeの後塵を拝し、その差は年々拡大している。

★技術的には同一
では放送のこうした大ピンチを、どう受け止めるべきか。通信と放送の関係は俯瞰すると、100年間の変化は「合理性」がキーワードとなる。100年前に放送は通信から切り分けられた。関東大震災でデマが飛び交い、被害が大きくなった。こ

絶好のチャンスだと考えるからだ。放送事業者にとって重要なのは、放送の使命を果たすと同時に、組織を維持可能にすることで、伝送路としての放送電波を死守することではない。そこにこだわらずにIP網を活用すれば、できることが増える。

まず総論としては、情報が全国津々浦々に届くことが大前提だ。これは有線無線に限らず、輻輳(ふくそう)を回避する技術は遠くから登場する。地上波テレビのネットワークも中小ミニサテの維持に苦勞しているが、IP網に一本化されるのが合理的となる可能性は大きい。

次に情報の届け方の問題がある。従来の放送で、編成表に従った一斉同報とは別に、見逃しやアーカイブVODなどのシステムが用意された。これがIP網に一本化されれば、視聴者はワンストップでリアルタイムもタイムシフトも享受できるようになり便利のようになる。放送は衰退の一途を辿るのではなく、見方を変える必要がある。放送は全く別のところから見え方を変える。放送が通信に包含されるのは、情報の多様性も増すに期待したい。

「合理性」追求すれば必ず活路
ワンストップでリアルも見逃しも

放送100年特集

祝 放送100年

2025年3月22日

従来は「1対多」の伝送システムの中、放送は最大公約数に向ける一方だ。しかし生活者は多様化し、それでは人々のニーズに追いつかない。放送利用者が減り続けた一因でもある。

IP網が前提なら、最大公約数向けのヘッドラインの番組を届けると同時に、多様なニーズに対応した詳細版をVODで享受できるような設計も可能だ。結果として利用者も戻ってくるだろう。

CMも同様だ。相手の属性に合わせて出し分けるアドレッシングは、RCMにすれば、

MIHARU

代表取締役社長

岩田 春樹

〒247-0051 神奈川県鎌倉市岩瀬二二八五

電話 (0467) 441911

FAX (0467) 461125

Blackmagicdesign

FOR.A

Find Your Next Innovation

岡野 太郎
代表取締役

okano@blackmagicdesign.com
www.blackmagicdesign.com/jp

株式会社 朋栄

東京都渋谷区恵比寿 3-8-1
TEL: 03-3446-3121
www.for-a.co.jp

NICCABI Rack System

ニツキャビ株式会社

代表取締役 社長

寺林 英明

〒211-0051 川崎市中区宮内2-5-8
TEL (044) 766-2111
FAX (044) 777-9000

インターネット・テクノロジー
総合イベント

Interop Tokyo

DSJ2025
デジタルサイネージ ジャパン

2025年6月11日(水)~13日(金)
幕張メッセ

https://www.interop.jp/

【お問い合わせ先】
(株) ナノソフト・メディア
june-info@f2ff.jp

Ikegami



Ikegami meets MoIP

池上通信機がつくる IPソリューション

池上通信機は70年以上にわたり高性能、高品質を生み出してきました。
放送の世界で培ってきたその技術力で、MoIPの新しい世界へ進化しようとしています。
多様なニーズに応えるSDIとIPのハイブリッドシステム
そして、その先の未来を見据えて
池上通信機から次世代へ向けた放送の変革がはじまります。

池上通信機株式会社 〒146-8567 東京都大田区池上5-6-16

www.ikegami.co.jp

お問い合わせは ●営業・マーケティング本部 放送第1営業部 TEL: 03-5748-2201 / 放送第2営業部 TEL: 03-5748-2261 ●大阪支店 TEL: 06-6389-4466 ●名古屋支店 TEL: 052-705-6521
●札幌営業所 TEL: 011-231-8218 ●仙台営業所 TEL: 022-292-2420 ●福岡営業所 TEL: 092-451-2521